

海外研修から見てきた大学図書館(2)

法政大学図書館 山田賢悟

I. はじめに

1. 研修概要

- ・私立大学図書館協会国際図書館協力委員会よりイリノイ大学モーテンソンセンター国際図書館プログラムへ派遣
- ・期間 2009 年 9 月 14 日から 10 月 30 日までの 7 週間(協会からの派遣は 7 人目)
- ・詳細は、私立大学図書館協会 HP 掲載の 2009 年度海外派遣研修報告書を参照のこと
(URL:http://www.jaspul.org/kokusai-cilc/haken_report2009.pdf)

2. イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校について

- ・1867 年に創立。中西部を代表する州立大学の一つ、学生数は約 4 万人(学部生約 3 万人、院生約 1 万人)
- ・州、連邦政府からの支援は総予算の約 40%を占める
- ・大学院(図書館情報学専攻)は全米1位の評価(2008)

3. 同大学図書館について

- ・約 40 の部門別図書館と管理部門で構成(総スタッフ数:約 500 名)
- ・蔵書数は全米大学図書館の中で 3 位(ハーバード、エール大に次ぐ)、州立大学では1位
- ・州立大学であるため、地域住民に開放されている

4. 研修参加目的

Web2.0 の技術を図書館サービスに利用した Library2.0 の動向と効果的な事例を学ぶ。

II. モーテンソンセンター概要・研修参加者内訳

1. モーテンソンセンターについて

- ・1986 年、C.Walter 氏と Gerda B.Mortenson 氏からの寄付 200 万ドルにより創設(当初は記念教授のポスト)
- ・1991 年、200 万ドルの追加寄付により世界各国の図書館員を対象に、実務レベルの研修を実施することとなる
- ・現在までに 89 カ国から 700 人を超えるライブラリアンがモーテンソンセンターで国際図書館プログラムを受けている

2. 研修参加者内訳

南アフリカ 4 名、ウガンダ 1 名、ナイジェリア 2 名、コロンビア 2 名、トリニダード・トバコ 1 名、ジョージア 1 名、ベトナム 1 名、韓国 1 名、日本 1 名、計 14 名の参加。アフリカ諸国からの参加者が増えている。

III. 学部図書館の Web を活用したサービスについて

- ・学部図書館では学生とコミュニケーションを図るために Blog、facebook、twitter、YouTube など積極的に活用している
- ・Blog、facebook はライブラリアンが更新し(随時)、twitter は学生スタッフが更新している(2~4 回程度/日)
- ・ツールに合わせて図書館のサイトにリンクを貼るなど、図書館サービスの入口としてとして活用している
- ・図書館内に複数部局がサテライトオフィスを設けているため、情報は図書館サービスに限らない
- ・Web 構築に際して、重視している点はユーザビリティ(使いやすさ)
- ・サードパーティー(外部のシステム)の利用については IM(インスタントメッセージング)で経験があるため心配していない

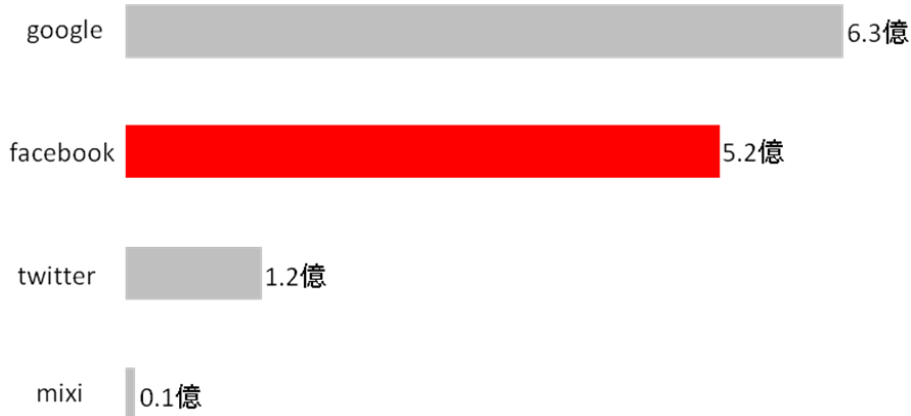
2009/10/26

学部図書館から“Twitter”に投稿された内容

AM8:19	9/11 から1ヶ月に満たない内にブッシュ大統領は愛国者法に署名した。あなたは、どう思いますか？(実際は 9.11 から 45 日後、2001 年 10 月 26 日にブッシュ大統領は愛国者法に署名。図書館の帯出記録を司法当局が調査できるようになったことを、踏まえてのもの) Less than a month after the 9/11 attacks then President Bush signed the Patriot Act into law. How does it affect you?
AM10:01	ライブラリアンのオフィシアワーがあなたのリサーチの憂うつを解決します。本日 3~5 時、291 教室で個別サポートを Get だけ！ Let Librarian's Office Hours cure your research blues. Get personalized help today from 3-5 in rm 291!
AM11:34	午後 2:30 から 4:30 まで、教養部が相談を受け付けます。あなたの専攻の締め切りと必要条件を理解するのに役立てよう！ Division of General Studies advising today at the UGL, 2:30-4:30! Get help figuring out academic deadlines or requirements for your major.

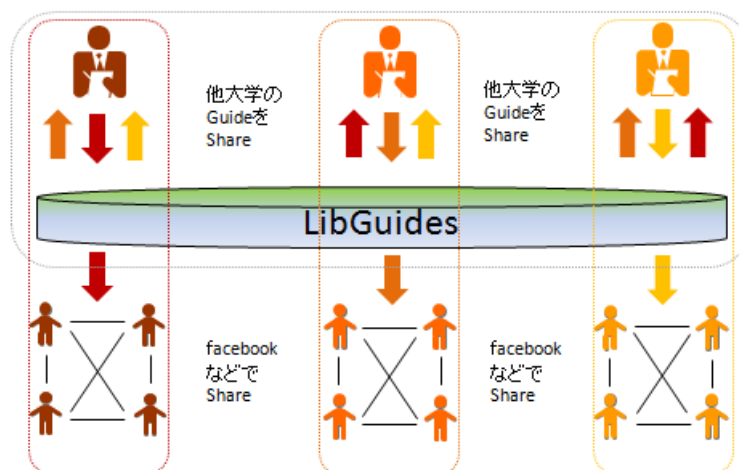
PM12:04	1年生へ:調査に参加して、コーヒー券(\$5)を手に入れよう!所要時間は15~20分、面白いよね! First year students: participate in a research study & get a \$5 Espresso gift card. Takes 15-20 mins and could be fun!
PM5:00	スポーツやスポーツ医学に関する記事なら、Sport Discus(データベース)を試してみよう。 For articles on Sports or Sports Medicine try Sport Discus.

・1日の来訪者数(Based on Alexa estimates,as of 09/09/2010 (WolframAlpha))



IV. LibGuides について

- ・LibGuidesはSpringshare社が提供する利用者参加型の学術情報コミュニティサービス
- ・ライブラリアンが作成したパスファインダーやサブジェクトガイド、コースガイドなどを登録し、Web上で利用者に提供
- ・他大学が作成したガイドも検索し利用することができる
- ・ガイドの内容に対する利用者からのフィードバック機能、ファイルのアップロード(word、PDF、PPTなど)、YouTubeなどの埋め込み、オンラインカタログや各種データベースへのリンクなど、ページをカスタマイズできる
- ・各部門のライブラリアンがLibGuidesを基盤にサブジェクトガイド等を作成し、利用者へ情報を発信している
- ・2010年2月末の時点で457のガイドを登録
- ・LibGuidesの利用料金はFTE方式ライセンス(\$899-\$2,999/年)で世界24カ国、1,097の図書館で利用されている
- ・全登録ガイド数は約74千件、作成ライブラリアン約17千人にのぼる

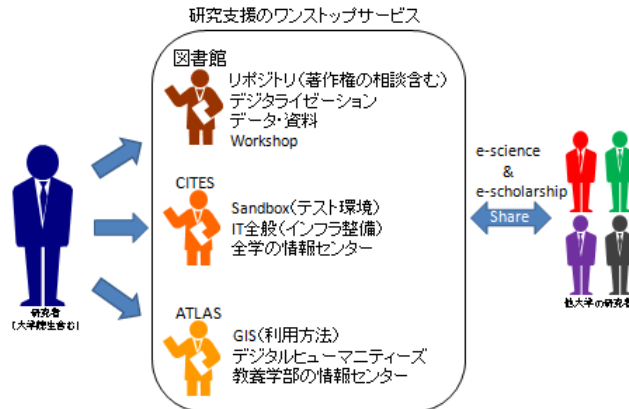


V. スカラリーコモンズについて

スカラリーコモンズは人文・社会科学専攻の大学院生、研究者、教員を対象にネットワーク上でデジタル技術を研究に応用するためのサービスである。スカラリーコモンズでは、これまで別々に提供されてきたサービスを各部署が協同で提供する。

- ・CITES(全学のIT支援室)やATLAS(教養学部のIT支援室)など関係部署との協同で学術サービスを提供
- ・E-Science(ネットを介した世界規模の協同)とE-Scholarship(リポジトリなど)に対する支援

- ・デジタルヒューマニティーズ(人文系研究に対するデジタル技術の応用)に対する支援
- ・GIS (Geographic Information System の略、地理情報システム)の利用に対するサポート
- ・デジタル映像資料の制作、利用、整理
- ・IT Sandbox (プログラムを試験的に動作させる保護領域)
- ・仮想的、物理的コミュニティの構築などである異なる部署で別々に提供されてきたが、スカラリーコモンズでは、各部署が協同でサービスを提供する



VI. ライブラリーマーケティング

- ・マーケティング理論を用いて図書館サービスの分析を行う
- ・マーケティング・アズ・コミュニケーション
- ・ライブラリーマーケティングでは、“**Champions**”を増やすことに焦点が定められている
- ・それぞれの分類(段階)に応じたサービスを提供し、最終的には“**Champions**”の分類になるように利用者へアプローチしなければならない。

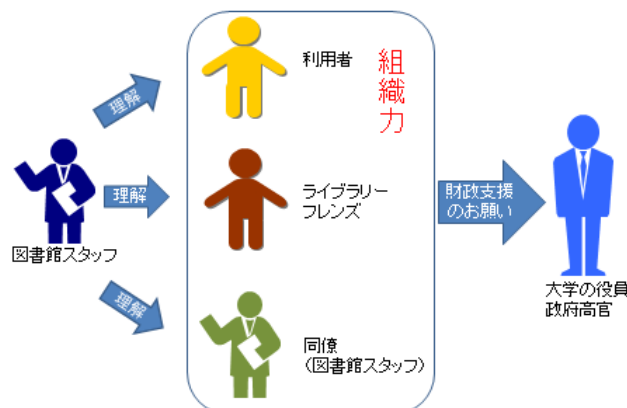
<分類>

Champions	図書館の良さを知ってくれて、応援してくれる利用者
Clients	応援まではしてくれないが、良く利用してくれる人
Customers	ちよくちよく、利用してくれる人
Prospects	足を運んでいないが、利用が期待できる人(館外)
Suspects	アプローチしても、すぐに利用が期待できない人 (館外)



VII. アドボカシー

- ・図書館の現状と必要性の理解を訴えるキャンペーン活動
- ・図書館員だけでなく、利用者を巻き込んで行う運動
- ・活動を通じ、図書館の存在感を高め、利用者を増やす
- ・図書館サービスの可視化(ミッションステートメントやアセスメントなど)、説得力のあるエピソードが必要



VIII. 感想(まとめ)

- ・情報は発信するのではなく、共有(ロコミ)する (アウトリーチから、学習支援、研究支援まで)
- ・WebのわかりやすさはPriceless! (ちょっとした贅沢で大きな満足!)
- ・サードパーティーも活用しよう! (ある意味、これもPriceless!)
- ・図書館への理解は、みんな(組織)で力を合わせて! (学内外で存在感をたかめよう!)

IX. 参考資料

1. ワークショップ

- ・UIUC 図書館では授業期間中、利用者(教職員、研究者、学生など)向けにワークショップを開催している
- ・E-vanced 社の図書館向けソフトウェアを利用して予定(カレンダー)が公開されている
- ・利用者が受講しやすいよう、同じ内容のワークショップを複数回、異なる曜日と時間帯で開催している
- ・説明だけでなく随時、質問(クイズ)があり、参加者の理解が進むよう工夫されていた

日付	テーマ
10/1	Uncover and Discover #3: The Graduate Student Toolkit (大学院生のための図書館利用ガイド～各種ツール、学位論文の機関リポジトリへの登録方法など)
10/1	Uncover and Discover #4: Designing Assignments using Library Resources (図書館の資料を利用した課題作成の方法)
10/2,13	Current Awareness: Tools to Stay Current in Your Field(文献レビューのための RSS、アラートの設定方法)
10/6,5,23	Drowning in Data? RefWorks can Help(RefWorks の利用方法)
10/7	How to Build a Great Poster(効果的なポスターセッションの方法)
10/8,14	InfoHacks: Developing Information Management Skills(情報整理術～RefWorks、RSS などの利用方法)
10/12,13	Journal Impact Factors: How to Identify Key Research in Your Field(インパクト・ファクターの利用方法)
10/16	Research Your Way Past Writer's Block(学位論文作成に関する図書館の利用相談)
10/19	A Library Introduction to GIS(地理情報システム“GIS”の利用方法)
10/19,28	The Savvy Researcher for Illinois Staff(各種検索システムの利用方法)
10/20	Citation Chasing: The Graduate Student's Guide to the Lit Review(大学院生向け文献レビュー案内)
10/20	Where's the Money? Finding and Securing Grant Funding (助成金・奨学金情報データベース“The Illinois Researcher Information Service”の利用方法)
10/21	4 out of 5 Professors Agree: Citing Polls in Your Papers Will Earn You a Better (米国の世論調査で代表的なデータベース“Roper iPOLL”の利用方法)
10/22	Finding and Using Statistics in the Social Sciences(社会科学系統計データの見つけ方、①LexisNexis Statistical、②FedStats、③World Development Indicators(WDI) Online を実習)
10/22	ICPSR: Health, Economic, Social & Political Data for Secondary Analysis(ICPSR の利用方法)
10/23	Rock the Data, Rock the Vote: Finding and Using National Election Survey Data (全米選挙・投票行動データベース“The American National Election Studies”の利用方法)
10/26,30	Understanding Open Access(オープンアクセスの意義、最新動向と機関リポジトリの活用)
10/27,28	Your Research Rights: Ownership Awareness to Maximize the Impact(「著作者の権利」に関する正しい理解)
10/27,28	Practical Copyright: Considerations for Teaching and Research(著作権の実際、正しい理解と公正な利用)
10/29	Responsible Scholarship Practices: Plagiarism and Academic Integrity at Illinois(盗作と学問的誠実性について)

2009 年 10 月開催のワークショップ。学期始まりということもあり、入門的なものが多い。

2. ユーザビリティ・スタディー(テスト)

Usability とは「使いやすさ」のことで、web 上で情報をえるための操作性(ボタンの位置、構成など)を意味する。紙に画面をパーツごとに描き、各パーツで構成された疑似 web ページを被験者に操作(クリック)してもらい、実際の動作と同様に、次のページを並べ、必要な情報を入手できるか操作性をチェックする。テストは繰り返し、問題点を修正するごとに、別な被験者でシミュレーションを複数回、実施する。

3. インスタントメッセージ

オンラインレファレンスのツール。UIUC 図書館では AOL 社の AIM WIMZI ウィジェット(IM をサイトに貼り付けることが可能。サイトの訪問者は IM ソフトなしでサイトの管理者とメッセージをリアルタイムで交換できる)を活用している。UIUC では中央図書館のレファレンス担当(主に大学院生)が質問に答えてくれる(月-木: 8:30am-11pm;金: 8:30am-6pm;土: 11am-5pm;日: 1-11pm)。

以上